

大学1年生に、私は時折「これまで『やばい』だけで会話ができたけど、これからはそういうわけにはいかないよ」と言っています。これまでは「あれやばくない?」「うわ、これやばい」と仲間内で言っていたらよかったです。けれど、大人になればもう通用しないのだと。

社会は多様な世代、文化、価値観を持った人たちの集まりです。だから私たちは、何がどう「やばい」のかということ、ちゃんと言葉にできる必要があるのです。そのため、私は学生たちに次の二つのことを伝えています。

一つは「言葉をためる」「こ

言葉をためる、交わし合う

と、もう一つは「言葉を交わし合う」ことです。

言葉をためるのに最も手っ取り早く効果的な方法は、やはり本を読むことです。いろいろな気持ちが胸の中にあっても、それがうまく言葉にならない時、私たちはどこかいららしてしまふものです。特にそれが激しい議論をしている時であれば、むしゃくしゃして、思わず暴力に訴えたくなることさえあるかもしれません。

でも、読書を通して、自分

熊本大教育学部准教授

菅野 一徳

2017.7.18

の気持ちや考えを的確に言い表す語彙を手に入れたなら、私たちは冷静に、相手と理解し合うための言葉を紡ぎ合っていけるはずなのです。

そうしてためた言葉を、多様な人たちと交わし合うこと。そんな機会を小学校から大学まで、私はもっともっと整えていく必要があると考えています。それはきっと、多様な人たちからなるこの民主主義社会を、もっと豊かなものにする若者たちを育てることにもつながるはずなのです。